



2026年3月期 決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年5月8日
東

上場会社名 塩水港精糖株式会社 上場取引所
 コード番号 2112 URL http://www.ensuiko.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 木村 成克
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 (氏名) 小田 俊一 (TEL) 03-3249-2381
 定時株主総会開催予定日 2026年6月26日 配当支払開始予定日 2026年6月29日
 有価証券報告書提出予定日 2026年6月25日
 決算補足説明資料作成の有無 : 無
 決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2026年3月期の連結業績(2025年4月1日~2026年3月31日)

(1) 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期	32,982	1.4	3,047	5.8	3,339	9.4	2,765	29.4
2025年3月期	32,519	3.1	2,880	92.7	3,052	43.5	2,136	44.8

(注) 包括利益 2026年3月期 4,369百万円(39.4%) 2025年3月期 3,135百万円(11.8%)

	1株当たり 当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 当期純利益	自己資本 当期純利益率	総資産 経常利益率	売上高 営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
2026年3月期	100.58	—	14.9	10.9	9.2
2025年3月期	77.91	—	14.1	10.7	8.9

(参考) 持分法投資損益 2026年3月期 119百万円 2025年3月期 30百万円

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2026年3月期	31,813	20,603	64.8	748.70
2025年3月期	29,405	16,618	56.5	605.50

(参考) 自己資本 2026年3月期 20,603百万円 2025年3月期 16,618百万円

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
2026年3月期	2,658	△1,132	△1,928	2,892
2025年3月期	3,701	△520	△2,171	3,313

2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向 (連結)	純資産 配当率 (連結)
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
2025年3月期	—	0.00	—	15.00	15.00	411	19.3	2.7
2026年3月期	—	0.00	—	20.00	20.00	550	19.9	3.0
2027年3月期(予想)	—	8.00	—	8.00	16.00		24.4	

3. 2027年3月期の連結業績予想(2026年4月1日~2027年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり当期純 利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通 期	32,100	△2.7	2,400	△21.3	2,600	△22.1	1,800	△34.9	65.47

※ 注記事項

(1) 期中における連結範囲の重要な変更 : 無
 新規 一社(社名)―、除外 一社(社名)―

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
 ② 期末自己株式数
 ③ 期中平均株式数

2026年3月期	35,000,000株	2025年3月期	35,000,000株
2026年3月期	7,480,346株	2025年3月期	7,553,429株
2026年3月期	27,494,158株	2025年3月期	27,420,672株

(参考) 個別業績の概要

1. 2026年3月期の個別業績(2025年4月1日~2026年3月31日)

(1) 個別経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期	21,939	△1.4	2,664	6.9	2,801	7.1	2,365	29.0
2025年3月期	22,244	5.2	2,493	139.7	2,614	50.7	1,833	48.4
	1株当たり 当期純利益		潜在株式調整後 1株当たり当期純利益					
	円 銭		円 銭					
2026年3月期	86.04		—					
2025年3月期	66.86		—					

(2) 個別財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円		百万円		%	円 銭		
2026年3月期	28,892		18,022		62.4	654.91		
2025年3月期	26,558		14,710		55.4	535.96		

(参考) 自己資本 2026年3月期 18,022百万円 2025年3月期 14,710百万円

※ 決算短信は公認会計士又は監査法人の監査の対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 経営成績の概況(4) 今後の見通し」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当期の経営成績の概況	2
(2) 当期の財政状態の概況	3
(3) 当期のキャッシュ・フローの概況	3
(4) 今後の見通し	4
2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方	5
3. 連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 連結貸借対照表	6
(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書	8
連結損益計算書	8
連結包括利益計算書	9
(3) 連結株主資本等変動計算書	10
(4) 連結キャッシュ・フロー計算書	12
(5) 連結財務諸表に関する注記事項	13
(継続企業の前提に関する注記)	13
(セグメント情報等)	13
(1株当たり情報)	14
(重要な後発事象)	14

1. 経営成績等の概況

(1) 当期の経営成績の概況

当連結会計年度における我が国の経済は、雇用・所得環境の改善が続く一方で、国際情勢の不安定化、中東情勢の緊迫化に伴う原油価格の上昇圧力、円安進行、物価上昇懸念など、依然として先行きは不透明な状況が続いております。

このような環境の中で、当社グループはお客様、地域社会、関係取引先、従業員及びその家族の安全と健康を確保することを最優先に、生活必需品である砂糖や、オリゴ糖をはじめとした機能性素材等の製品を安定して消費者の皆様にお届けすることを第一義に考え、お客様のおなかの健康に貢献する「おなかにやさしい会社」として、砂糖事業及びバイオ事業の計画達成に向けて全力で取り組んでまいりました結果、当期の業績は以下のとおりとなりました。

①砂糖事業

海外原糖市況は、ニューヨーク市場粗糖先物相場（当限、1ポンド当たり）において18.89セントで始まり、4月初旬に高値19.63セントをつけましたが、米国の関税政策をきっかけとした市場のリスクオフの雰囲気から期初から値を下げる展開となりました。10月以降、砂糖主要生産国ブラジルの生産ペースが前年を上回り、年明け1~2月には、タイやインドでも順調な生産が続いたため市場に供給過剰感が広がったことから、2月中旬には5年ぶりの安値13.78セントまで下落しました。その後は、中東情勢の緊張による原油高でブラジルがエタノールヘシフト、砂糖の供給減少懸念から反発となり、結局15.52セントで当期を終了しました。

国内市中価格（日本経済新聞掲載、上白大袋1kg当たり）は、期初249円~251円で始まり、11月下旬に241円~243円に値を下げ、同水準のまま当期を終了しました。

精糖及びその他糖類など国内販売では、家庭用製品が低調に推移したものの、業務用製品においては、大阪万博開催をはじめとした観光・インバウンド需要等の増加により、売上高は前年同期を上回りました。

上記に加え、適正価格での仕入・販売に努めました結果、砂糖事業全体の売上高は31,368百万円（前連結会計年度比1.6%増）、セグメント利益は4,193百万円（前連結会計年度比8.7%増）となり、それぞれ過去最高を更新いたしました。

②バイオ事業

オリゴ糖部門は、引き続き美容家・IKKO氏と落語家・林家つる子氏をメインキャラクターに据え、“オリゴのおかげ=腸活”の認知向上を図る広告展開を行いました。大容量タイプ等のコアユーザー向け商品は堅調に推移したものの、一部の家庭用及び業務用製品の販売が低調に推移したため、売上高は前年同期を下回りました。

サイクロデキストリン部門は、一部ユーザー向けの大口受注が入るなど、売上高は前年並みとなりました。

ビーツ部門は、ECサイトでの販売を中心に展開し、売上高は前年並みとなりました。

以上の結果、バイオ事業全体の売上高は1,603百万円（前連結会計年度比1.3%減）、セグメント利益は282百万円（前連結会計年度比10.7%減）となりました。

③その他

その他の事業につきましては、ニューESRビル事務所の一部賃貸等を行い、所有不動産の活用に努めました結果、売上高は139百万円（前連結会計年度比2.8%増）、セグメント利益は77百万円（前連結会計年度比0.2%減）となりました。

以上の結果、当期の売上高は32,982百万円（前連結会計年度比1.4%増）、営業利益は3,047百万円（前連結会計年度比5.8%増）、経常利益は3,339百万円（前連結会計年度比9.4%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は2,765百万円（前連結会計年度比29.4%増）となり、売上高、営業利益、経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益はそれぞれ過去最高を更新いたしました。

(2) 当期の財政状態の概況

(資産、負債及び純資産の状況)

①資産

当連結会計年度末の総資産は前連結会計年度末に比べて2,407百万円増加し、31,813百万円となりました。

これは主に、機械装置及び運搬具(純額)132百万円、投資有価証券2,816百万円、長期貸付金222百万円が、それぞれ増加したことによるものであります。

②負債

負債合計は前連結会計年度末に比べて1,577百万円減少し、11,209百万円となりました。

これは主に、有利子負債1,518百万円、未払法人税等49百万円、未払消費税等100百万円が、それぞれ減少したことによるものであります。

③純資産

純資産合計は、前連結会計年度末に比べて3,984百万円増加し、20,603百万円となりました。

これは主に、利益剰余金2,352百万円の増加、その他有価証券評価差額金1,431百万円の増加であります。

(3) 当期のキャッシュ・フローの概況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物(以下「資金」という)は、前連結会計年度末と比べて420百万円減少し、2,892百万円となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

①営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果得られた資金は、2,658百万円(前連結会計年度比1,042百万円の減少)となりました。

これは主に、税金等調整前当期純利益3,940百万円による資金の増加があった一方で、法人税等の支払1,232百万円による資金の減少があったことによるものであります。

②投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果支出した資金は、1,132百万円(前連結会計年度は520百万円の資金支出)となりました。

これは主に、貸付金の回収による収入839百万円等による資金の増加があった一方で、投資有価証券の取得による支出1,376百万円、有形固定資産の取得による支出845百万円による資金の減少があったことによるものであります。

③財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果支出した資金は、1,928百万円(前連結会計年度は2,171百万円の資金支出)となりました。

これは主に、借入金の純減額1,518百万円による資金の減少があった一方で、配当金の支払410百万円による資金の減少があったことによるものであります。

④資本の財源及び資金の流動性

当社グループの運転資金需要のうち主なものは、原料糖の購入費用のほか、製造費、販売費及び一般管理費等の営業費用であります。投資を目的とした資金需要は、設備投資等によるものであります。

短期運転資金は自己資金及び金融機関からの短期借入を基本としており、設備投資や長期運転資金の調達につきましては、金融機関からの長期借入を基本としております。

なお、当連結会計年度末における有利子負債の残高は6,730百万円となっております。

(4) 今後の見通し

今後の見通しにつきましては、わが国経済は各種経済政策の効果もあり、実質賃金の上昇や個人消費の持ち直しが期待される一方、不安定な為替相場の推移や海外経済の不確実性、さらには原材料・エネルギー価格の動向など、依然として先行き不透明な状況が続いております。

かかる環境の下、当社及び当社グループは、国民の生活を支える基礎的食品である砂糖や、オリゴ糖をはじめ健康付加価値のある機能性素材等を、消費者の皆様へ安定してお届けすることを第一義とし、政府の食料安定供給に関する指針に沿い、非常時においても安全安心な製品を安定的に供給することが食品会社に課せられた使命であるとの認識の下、品質管理及び危機管理体制の強化、環境変化にも適応した事業体制の構築と経営基盤のさらなる強化に努めてまいります。

なお、当社グループでは、2026年3月期から2031年3月期を対象とした中期経営計画「NEXT 2030」を策定し、2026年5月8日に開示いたしました。本計画に基づき、砂糖事業の安定的な収益確保と、バイオ事業（オリゴ・ビーツ）を中心とした収益基盤の多角化に向けた諸施策を着実に実行し、持続的な企業価値の向上に邁進してまいります。また、『おなかにやさしい』を軸として、健康社会に貢献し、未来を創る企業集団への変革を目指してまいります。

かかる中、以下のとおり各事業を推進してまいります。

砂糖事業につきましては、高甘味度甘味料の台頭や人口減少により、砂糖消費量は年々減少傾向にあります。事業の維持・成長には、身体の大事なエネルギー源である砂糖の正しい知識を普及させ消費減退に歯止めをかけるとともに、強固な収益基盤を構築することが不可欠です。前期においては国際相場の下落等を受け約7年ぶりとなる価格改定（値下げ）を実施いたしました。引き続きコスト管理の徹底と適正価格での販売に注力し、市場の再活性化に取り組んでまいります。

バイオ事業につきましては、オリゴ糖部門は主力製品「オリゴのおかげ」シリーズにおいて、従来の健康意識層に加え、美容意識の高い層など多様な顧客層へのアプローチを強化しております。また、昨年発売した「さとうきびオリゴ」は、ナチュラル志向のユーザー層を取り込み順調に配荷が進んでおり、今後も幅広い認知拡大と販売促進に努めてまいります。

ビーツ部門につきましては、事業の収益化と第3の柱への成長を目指し、お客様のニーズを柔軟に取り入れ、「ビーツのおかげ」としてリニューアルいたしました。当社の「乳糖果糖オリゴ糖」を配合し、シンプルかつバランスの良い味わいに仕上げた本製品について、ECサイトを主軸とした展開により拡販に注力し、国内におけるビーツの普及と売上伸張を図ってまいります。

サイクロデキストリン部門につきましては、引き続き技術改善と生産効率の向上を図り、安定的な収益性の確保に努めてまいります。

新商品開発につきましては、砂糖の持つ多機能性（保水、防腐、酸化防止等）に着目した新たな価値提案を継続するとともに、提携先各社とのシナジーを活かした新商品・新素材の具体化を推進してまいります。

フジ日本株式会社とのアライアンスにつきましては、2025年10月に締結した契約に基づき、現在プロジェクトチームによる協議を継続しております。精糖分野における共同生産・購買・ロジスティクスの効率化によるコスト削減・CO2削減、バイオ分野における両社の強みを活かした新素材・商品の共同開発など、シナジーの最大化を目指してまいります。

大東製糖株式会社との業務提携の状況につきましては、「新事業・新商品開発」「既存事業強化」「販売体制強化」「社会貢献活動」の4項目を軸に、両社の販売網を活かした協働体制の深化などを進めております。社会貢献活動におきましても、当社役員が「クローバースマイルズアクト」の評議員に就任し、ビーチクリーンアップ活動を共同開催するなど、協業体制は着実に強化されております。

かかる状況を踏まえ、次期の連結業績見通しにつきましては、売上高は32,100百万円（前年同期比2.7%減）、営業利益は2,400百万円（同21.3%減）、経常利益は2,600百万円（同22.1%減）、親会社株主に帰属する当期純利益は1,800百万円（同34.9%減）を見込んでおります。

2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社グループは、国際的な事業展開や資金調達を行っておりませんので、国内での I F R S の採用動向を検討した結果、当面は日本基準に基づき連結財務諸表を作成する方針です。

3. 連結財務諸表及び主な注記

(1) 連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当連結会計年度 (2026年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,313	2,892
受取手形及び売掛金	2,061	2,102
商品及び製品	1,382	1,145
仕掛品	291	332
原材料及び貯蔵品	1,587	1,186
未収還付法人税等	0	—
その他	1,118	1,107
流動資産合計	9,756	8,766
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	10,296	10,395
減価償却累計額	△7,974	△8,116
建物及び構築物（純額）	2,322	2,278
機械装置及び運搬具	12,671	12,664
減価償却累計額	△10,922	△10,782
機械装置及び運搬具（純額）	1,749	1,882
工具、器具及び備品	436	520
減価償却累計額	△378	△414
工具、器具及び備品（純額）	58	105
土地	5,185	5,185
建設仮勘定	93	123
有形固定資産合計	9,408	9,575
無形固定資産		
ソフトウェア	12	9
その他	6	6
無形固定資産合計	18	15
投資その他の資産		
投資有価証券	8,375	11,191
長期貸付金	1,520	1,742
繰延税金資産	275	275
退職給付に係る資産	—	174
その他	50	71
投資その他の資産合計	10,221	13,456
固定資産合計	19,649	23,047
資産合計	29,405	31,813

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当連結会計年度 (2026年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,352	960
短期借入金	2,700	2,600
1年内返済予定の長期借入金	1,688	1,584
未払法人税等	768	719
未払消費税等	275	175
賞与引当金	63	65
その他	1,099	960
流動負債合計	7,947	7,065
固定負債		
長期借入金	3,860	2,546
退職給付に係る負債	108	—
繰延税金負債	656	1,383
その他	214	215
固定負債合計	4,839	4,144
負債合計	12,786	11,209
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,750	1,750
資本剰余金	241	241
利益剰余金	15,656	18,008
自己株式	△2,890	△2,862
株主資本合計	14,756	17,137
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,750	3,181
繰延ヘッジ損益	2	△11
退職給付に係る調整累計額	109	295
その他の包括利益累計額合計	1,862	3,466
純資産合計	16,618	20,603
負債純資産合計	29,405	31,813

(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書

連結損益計算書

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
売上高	32,519	32,982
売上原価	26,331	26,471
売上総利益	6,188	6,510
販売費及び一般管理費	3,307	3,462
営業利益	2,880	3,047
営業外収益		
受取利息	34	44
受取配当金	178	195
持分法による投資利益	30	119
為替差益	5	25
その他	24	13
営業外収益合計	273	398
営業外費用		
支払利息	92	99
支払手数料	4	3
その他	4	5
営業外費用合計	101	107
経常利益	3,052	3,339
特別利益		
投資有価証券売却益	40	605
特別利益合計	40	605
特別損失		
減損損失	—	3
特別損失合計	—	3
税金等調整前当期純利益	3,093	3,940
法人税、住民税及び事業税	969	1,181
法人税等調整額	△12	△7
法人税等合計	956	1,174
当期純利益	2,136	2,765
親会社株主に帰属する当期純利益	2,136	2,765

連結包括利益計算書

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
当期純利益	2,136	2,765
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	951	1,426
繰延ヘッジ損益	2	△13
退職給付に係る調整額	51	182
持分法適用会社に対する持分相当額	△5	8
その他の包括利益合計	999	1,604
包括利益	3,135	4,369
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	3,135	4,369

(3) 連結株主資本等変動計算書

前連結会計年度(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	1,750	241	13,773	△2,916	12,848
当期変動額					
剰余金の配当			△246		△246
親会社株主に帰属する当期純利益			2,136		2,136
自己株式の処分		△7		26	18
自己株式処分差損の振替		7	△7		—
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					—
当期変動額合計	—	—	1,882	26	1,908
当期末残高	1,750	241	15,656	△2,890	14,756

	その他の包括利益累計額				純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ損益	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計	
当期首残高	799	0	63	862	13,711
当期変動額					
剰余金の配当				—	△246
親会社株主に帰属する当期純利益				—	2,136
自己株式の処分				—	18
自己株式処分差損の振替				—	—
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	950	2	46	999	999
当期変動額合計	950	2	46	999	2,907
当期末残高	1,750	2	109	1,862	16,618

当連結会計年度(自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	1,750	241	15,656	△2,890	14,756
当期変動額					
剰余金の配当			△411		△411
親会社株主に帰属する当期純利益			2,765		2,765
自己株式の処分		△0		27	26
自己株式処分差損の振替		0	△0		－
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					－
当期変動額合計	－	－	2,352	27	2,380
当期末残高	1,750	241	18,008	△2,862	17,137

	その他の包括利益累計額				純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ損益	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計	
当期首残高	1,750	2	109	1,862	16,618
当期変動額					
剰余金の配当				－	△411
親会社株主に帰属する当期純利益				－	2,765
自己株式の処分				－	26
自己株式処分差損の振替				－	－
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	1,431	△13	186	1,604	1,604
当期変動額合計	1,431	△13	186	1,604	3,984
当期末残高	3,181	△11	295	3,466	20,603

(4) 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	3,093	3,940
減価償却費	558	602
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	△1	△184
賞与引当金の増減額 (△は減少)	0	2
受取利息及び受取配当金	△213	△240
支払利息	92	99
為替差損益 (△は益)	1	17
持分法による投資損益 (△は益)	△30	△119
減損損失	—	3
有価証券及び投資有価証券売却損益 (△は益)	△40	△605
売上債権の増減額 (△は増加)	469	△40
棚卸資産の増減額 (△は増加)	40	597
仕入債務の増減額 (△は減少)	212	△391
その他	△36	66
小計	4,144	3,748
利息及び配当金の受取額	214	240
利息の支払額	△92	△99
法人税等の支払額	△565	△1,232
法人税等の還付額	—	0
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,701	2,658
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△553	△845
無形固定資産の取得による支出	△6	△1
投資有価証券の取得による支出	△1	△1,376
有価証券及び投資有価証券の売却による収入	133	1,310
投資その他の資産の増減額 (△は増加)	△500	△39
貸付けによる支出	△523	△1,020
貸付金の回収による収入	931	839
投資活動によるキャッシュ・フロー	△520	△1,132
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△1,600	△100
長期借入れによる収入	1,800	300
長期借入金の返済による支出	△2,125	△1,718
自己株式の取得による支出	—	△0
配当金の支払額	△246	△410
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,171	△1,928
現金及び現金同等物に係る換算差額	△1	△17
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	1,008	△420
現金及び現金同等物の期首残高	2,305	3,313
現金及び現金同等物の期末残高	3,313	2,892

(5) 連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象事業の単位で構成しております。

「砂糖事業」は砂糖を製造・販売し、「バイオ事業」は乳糖果糖オリゴ糖及びサイクロデキストリンを製造・販売しております。「その他」については、主にニューE S Rビルの一部を第三者へ賃貸しております。

2 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、その他の項目の金額に関する情報及び収益の分解情報

前連結会計年度(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注1) (注2)	連結財務諸表 計上額 (注3)
	砂糖事業	バイオ事業	その他	計		
売上高						
顧客との契約から生じる収益	30,816	1,583	—	32,400	—	32,400
その他の収益(注4)	—	—	119	119	—	119
外部顧客への売上高	30,816	1,583	119	32,519	—	32,519
セグメント間の内部売上高又は振替高	48	41	16	106	△106	—
計	30,864	1,625	135	32,626	△106	32,519
セグメント利益	3,858	316	77	4,253	△1,372	2,880
セグメント資産	13,714	1,584	1,043	16,342	13,063	29,405
その他の項目						
減価償却費	449	66	11	527	30	558
減損損失	—	—	—	—	—	—
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	360	122	—	482	51	533

(注) 1 セグメント利益の調整額は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び研究開発費であります。

2 セグメント資産の調整額13,063百万円は、各報告セグメントに配分していない全社資産であります。全社資産は、主に預金、本社有形固定資産及び投資有価証券等であります。

3 セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

4 その他の収益は、「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号)に基づく賃貸収入等であります。

当連結会計年度(自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注1) (注2)	連結財務諸表 計上額 (注3)
	砂糖事業	バイオ事業	その他	計		
売上高						
顧客との契約から生じる収益	31,296	1,562	—	32,858	—	32,858
その他の収益(注4)	—	—	123	123	—	123
外部顧客への売上高	31,296	1,562	123	32,982	—	32,982
セグメント間の内部 売上高又は振替高	72	41	16	129	△129	—
計	31,368	1,603	139	33,112	△129	32,982
セグメント利益	4,193	282	77	4,554	△1,506	3,047
セグメント資産	13,634	1,610	1,033	16,277	15,535	31,813
その他の項目						
減価償却費	470	66	11	548	54	602
減損損失	—	—	—	—	3	3
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	642	60	0	704	68	772

(注) 1 セグメント利益の調整額は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び研究開発費であります。

2 セグメント資産の調整額15,535百万円は、各報告セグメントに配分していない全社資産であります。全社資産は、主に預金、本社有形固定資産及び投資有価証券等であります。

3 セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

4 その他の収益は、「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号)に基づく賃貸収入等であります。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
1株当たり純資産額	605円50銭	748円70銭
1株当たり当期純利益金額	77円91銭	100円58銭

(注) 1 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
1株当たり当期純利益金額		
親会社株主に帰属する当期純利益(百万円)	2,136	2,765
普通株式に係る親会社株主に帰属する 当期純利益(百万円)	2,136	2,765
普通株式の期中平均株式数(株)	27,420,672	27,494,158

3 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度末 (2025年3月31日)	当連結会計年度末 (2026年3月31日)
純資産の部の合計額(百万円)	16,618	20,603
普通株式に係る期末の純資産額(百万円)	16,618	20,603
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通 株式の数(株)	27,446,571	27,519,654

(重要な後発事象)

該当事項はありません。